

## 平成24年度自然体験事業

### 1 自然体験事業一覧

平成24年度は、市内小学校の自然体験学習も始まったこともあり、多くの子ども達と出会い、森を舞台にあきる野の自然や歴史・文化の素晴らしさや大切さを伝える体験事業を実施してきました。また、講演なども増え、様々なかたちで森林レンジャーの活動から見えてきたあきる野の自然と現状や課題を学んでもらうことができました。その他には、市外や大人を対象とした自然体験事業、活動や自然を紹介するための出展も行い、「東京のふるさと・あきる野」を広く伝える活動を実施しました。

特に、今年度は実体験を重視した自然体験事業だけではなく、森の現状を知り自然と人の暮らしを守るために行動する活動を始動しました。(アニマルサンクチュアリ活動)

#### 主催事業一覧

	事業	対象	件数	参加者
1	市内小学校体験学習	子ども	14	860
2	市外小学校体験学習		1	62
3	森の子コレンジャー		13	312 (のべ人数)
4	講演、出前授業		4	319
5	若宮子ども体験の森事業	親子	1	8 (大人3、子ども5)
6	市外団体受入れ		3	114 (大人47、子ども67)
7	森林レンジャーツアー	大人	2	56
8	アニマルサンクチュアリ活動		1	22
9	出展	誰でも	3	—
	合計		35	1753

## 2 主な事業内容詳細

### 1) 市内外小学校体験学習

実施日時	学校名と学年	体験ルートと内容	目的
4月19日 8:30— 14:00	増戸小 4年	増戸小—弁天山—小峰公園までの山歩き（総合学習）	自然の面白さを知る
5月21日 11:00— 14:30	屋城小 3年	丸太切り体験と軍道集落散策（社会科学習）	地形を実感し、土地利用の様子や市西部の自然環境を知る
5月28日 11:30— 14:00	東秋留小 4年	長岳尾根散策（総合学習）	自然の豊かさを実感し、自然について考える
6月5日 9:00— 14:20	戸倉小 3、4年	戸倉、小宮地区の野鳥観察（総合学習）	自然への関心を深める
6月22日 8:45— 14:20	五日市小 4年	金比羅山—横根峠—本須（総合学習）	昔道を歩き自然を体験して感じる
6月29日 9:00— 13:30	拝島第二小 5年	横根道歩き（学校行事）	昔道を歩き自然を体験して感じる
9月7日 9:30— 14:30	一の谷小 6年	養沢川周辺の動植物調査（総合学習）	地域の自然をより深く知る
9月11日 12:00— 14:30	西秋留小 5年	長岳尾根散策（理科学習、学校行事）	秋川上流部と下流部の自然を比較し、自然の豊かさを実感する
9月25日 8:50— 14:20	多西小 3年	横根道歩きと丸太切り体験（学校行事、社会科学習）	山歩き、自然体験

10月4日 8:45— 14:20	草花小 3年	石原沢林道の泉と五柱 神社、川散策（社会科、 総合学習）	森と川のつながりを知る
10月16日 12:35— 14:35	前田小 3年	石原沢林道の泉と軍道 集落散策（社会科学習）	自分たちの住んでいる所と山 間部の暮らしの違いを知る
10月23日 8:30— 14:30	増戸小 4年	高明山登山（総合学習）	市内の自然環境について理解 を深める
10月30日 9:00— 13:40	屋城小コミ ユニケーシ ョン学級	長岳尾根と飯ごう炊さ ん	自分でなんでもできるように 体験する
10月31日 9:00— 13:40	屋城小コミ ユニケーシ ョン学級	長岳尾根と飯ごう炊さ ん	自分でなんでもできるように 体験する
11月27日 13:00— 15:00	南秋留小 3年	石原沢林道の泉 （社会科、総合学習）	市内の自然環境について理解 を深める

#### ・体験学習の進め方

事前に小学校の先生と打ち合わせと実踏を行い、児童に体験してほしいこ  
とや学習のねらいなどを共有します。森林レンジャーにできること、学校で  
できることを確認し、事前・事後学習へつなげる体験を提案しました。実踏  
では、当日の流れやルート説明、安全管理や緊急時対応を共有し、協力して  
ひとつのプログラムを作ります。



実踏のようす

- ・体験ルート

体験学習で利用している自然体験ルートは、地域の方やサポートレンジャーと協働で復活させた昔道や景観整備を行った地区、歴史や文化が残る場所や集落です。

昔道とは、電気や水道、ガスがない時代に人は森を管理し利用することで生活していた頃に使っていた生活道です。また、人々の生活において重要な役割を果たしていた馬のための水飲み場や馬頭観音、養蚕の神さまや山の神さまなどの祠もあり、森と人が深く関わっていた様子も学ぶことができます。昔道の途中にある針葉樹林と広葉樹林の森の違いと、人によって管理されている森と管理されていない森の違いなども体験し、自然と人とのつながりを感じ考えることができるルートだと言えます。





・体験を終えて

体験学習は、環境教育の入り口としての「自然を好きになるきっかけ」を与える体験です。地域で育つ子ども達が、身近な自然に目を向け、再発見し、地域に誇りを持つことがあきる野の自然の未来につながると考えています。

体験を終えた子ども達から、多くの感想文をいただきました。「自然に興味がなかったけど、自然を楽しみ、もっと知りたいと思った。自然を好きになった。」「教えてもらったことを家族に教えてあげたい。」「将来森林レンジャーになりたい。」今後も、こうした体験のサポートを続けていきます。

## 2) 森の子コレンジャー

実施月	テーマ	内容（森づくりと自然体験）
5月	始動式	1年お世話になる地域の散策と、地域の草刈りのお手伝い
6月	昔道歩き	森の整備（トイレ、道づくり、下刈り）と、昔道を歩いて、森と人のつながりを知る
6月	新宿の森事業	新宿の森の草刈りの手伝い
7月	夜の森	展示物作成と、普段体験できない夜の森を歩き、自然を五感で感じる
7月	港区交流事業	川遊びと釣り体験
8月	川	森の整備の後、川の生き物さがしや釣りを体験 森と川のつながりを知る
9月	小宮ふるさと自然体験 学校開校式	自然体験から得られた学びを発表する シンボルツリーを植樹する
10月	間伐	森・人・野生動物の目線で間伐を考え、木を伐る材は、薪や体験事業で利用した
11月	登山	馬頭刈山登山で、登山のルールや楽しさを学ぶ
12月	地域の森の管理	瀬音の湯周辺散策路の整備と、レンジャーツアーで参加者が植樹した木の管理作業を行う

1月	クマのクリを植える (P172 アニマルサン クチュアリ活動参照)	奥山にクマのためのクリを植樹した 森の現状を知り、自分たちにできる行動を学ぶ
2月	野生動物と人のための 森づくり	1年間整備してきた森に、自分たちの基地づくり と野生動物のための植栽を行った
3月	卒業パーティー	1年間のふりかえりを行い、保護者に整備してきた 森を案内する みんなでカレー&チャパティを作った

### ・森づくり

山林所有者の協力の下、トイレ作り、道づくり、階段作り、枯れ木の伐り倒し、下刈り、間伐、枝はらい、皮剥き、運搬、薪割り、薪や展示品作成など、整備から木の利用までを行いました。

荒れている森を1年間継続して手入れを行い、その変化を見つめていきました。夢中で整備をしていた森には、自分たちが森で遊ぶための基地やスペース作りだけではなく、野生動物が食物の少なくなる冬に食べる実をつける植物の植栽を行い「野生動物の場所(レストラン)」もつくりました。それは、夏に子ども達それぞれが「自分が考えるいい森」を考えてもらった時に、野生動物と人と植物が居心地のいい森を描いた子どもたちの想いを知り、その子ども達の想いとレンジャーの経験を交えた“森”を目標に森づくりを行って来ました。

コレンジャーの森づくりで特記すべきことは、整備したこの森と材は野生動物や自分たちのためだけではなく、小宮ふるさと自然体験学校を訪れた参加者の自然体験プログラムで利用していることです。

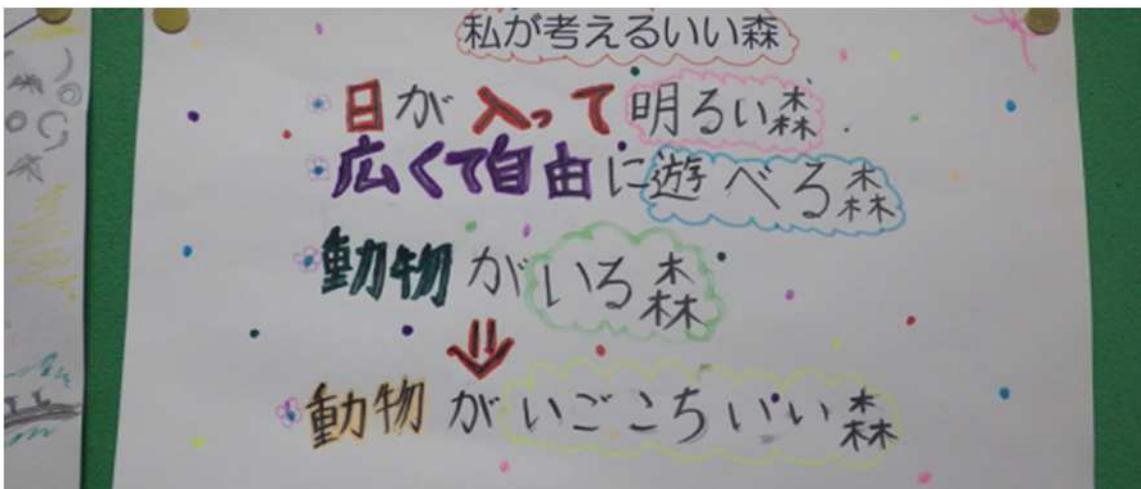




生まれ変わった森



野生動物のための植栽



・自然体験

学校や日常では体験できない、夜の森、昔道歩き、川遊び、森遊び、観察などを通して、あきる野市の自然に親しみ身近な自然の素晴らしさに気づく活動です。また、こうした体験で共有したことを森づくりに活かしました。

子ども達が体験している時、真剣に学ぶ眼差しと自然な笑顔、夢中な顔、好奇心に満ち溢れた顔をしています。将来を担う人材となるためには、子どもの時に森で思いっきり体を使いこうした顔になれる体験も必要だと考えています。



・コレンジャーの活動を終えて

コレンジャーの活動は「森づくり」と「自然体験」という2つのテーマを持って活動してきました。森づくりをしていく中で、自然の仕組みや自然と人との関わりを実体験から学び、目の前の自然に対して今できることを知るだけでなく、子ども達が将来「あの時やっていたことはこういうことだったのか！」と何かに気づき、その時に自然や郷土に対しての行動につながることを期待する活動です。自然体験では、自然を詳しく学ぶことはもちろん、自然の中でからだを使って遊びます。それは、それぞれの子どもが持っている感性や好奇心を伸ばし自然に親しむ方法を子ども自身が見つかるものです。

コレンジャーに1年間で一番印象に残っている活動を聞くと、クマのために奥山に植樹に行ったことや、クマの調査をしたことと答えた子どもが目立ちました。(P179 アニマルサンクチュアリ活動事業報告参照) 自然の素晴らしさを伝えるだけではなく、森の現状を知り「何かのために行動した」ということが強く心に残ったのでしょう。私たちがコレンジャーへつなぐことは「事実と行動」であることを子ども達から教えてもらったような気がします。

しかし、小学4年～中学1年生の29名が同じ体験をする場を作ることは難しく、全員が同じように森林レンジャーから学ぶことができなかったという問題があります。体を使って森づくりを行い自然と遊ぶことが目的であれば目的は達成されたと言えますが、森の子コレンジャーの活動は森林レンジャーが培ってきた知識や経験を次世代へつなぐという目的があります。24年度からは市内小学生の体験学習が始まり「自然を好きになるきっかけ作り」を広く実施していくので、25年度のコレンジャーは「事実と行動」という一つのテーマに絞って、小学4、5年生を対象に少人数(20名)での活動を実施していきます。



1年間の活動を振り返って一番印象に残っていること

### 3) 講演、出前授業

#### ・あきる野市立増戸中学校 環境学習講演

「自然を愛する心を育む、マナーを身につける」というテーマでの依頼で、50分の講演を実施しました。

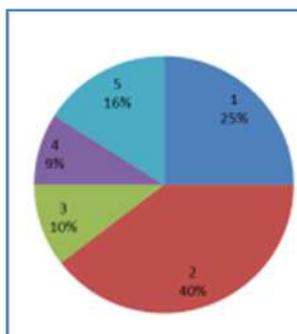
パプロレンジャーが、あきる野市の多様な環境と野生生物の紹介を行い、市内の滝が135本あること(平成25年3月現在)、きれいな昆虫の宝庫である里山、奥山にはカモシカなどの哺乳類も生息しており、あきる野市には豊かな自然があることを学び、地域の自然環境を正しく知ったようでした。

「多様な環境があるからこそ、多様な野生生物が生息できる」ということを学び、特に「外来種問題」の話は大きな反響がありました。外来種が豊かな自然を壊しているが、その外来種を持ち込んだのは人間だということを知り、生徒の心に深く残ったようでした。

加瀬澤レンジャーが、森でみられる野生生物の痕跡について紹介し、身近に生息する野生動物の生態や行動を説明しました。野生動物の痕跡から「森は様々なつながりが作りだしている」ことを学んだようでした。また、クマの痕跡から森の現状を説明し、野生動物が暮らしにくい森を作ったのは人間だということ、そして、野生動物が人里へ下りて来て人への被害もあることを説明しました。「多様な野生動物が暮らせる森は、人の暮らしを守ることもつながる」ということを理解してくれたようでした。

今回の講演で印象的だったのは、「普段おとなしい生徒が積極的に発言していた」「身近な自然の話が生徒の学習意欲につながった」「地域の自然を愛するレンジャーがあきる野にいることへの関心があった」という先生の感想と、「小学生の頃は森へ行っていたが、中学生になって行かなくなった」という生徒の感想文が多かったことです。

生徒の感想文を集計し分析すると、一身近な自然を知り、現状を知り、実際に地域の自然の保全活動をしている存在を知ること、自然や郷土を守るために自分ができることに気づく—と言えます。自然との関わりが薄くなった世代への講演が、森林レンジャーが行う環境教育活動として重要であり、効果があるということがわかりました。

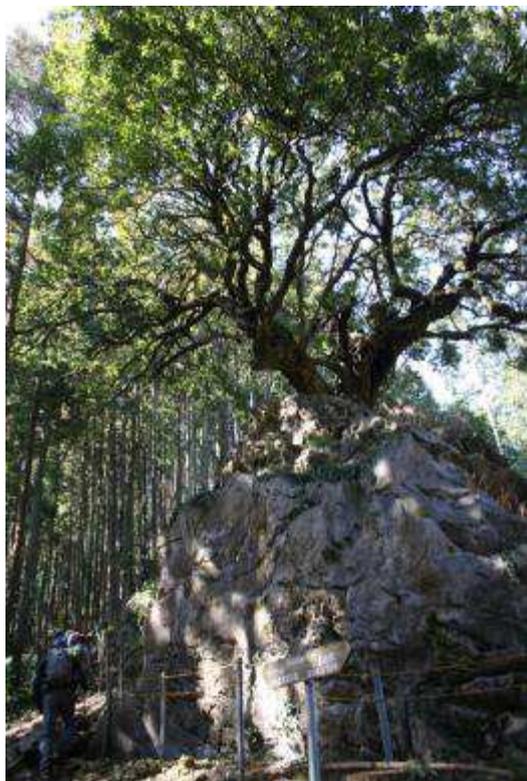


- 1 環境や自然を守ることに目覚めた
  - 2 あきる野の自然が理解できた
  - 3 自然に興味を持った
  - 4 山(森)に行ってみたくなくなった
  - 5 外来種の問題が理解できた
- ※74名の感想文からの抽出で複数回答での集計

#### 4) 森林レンジャーツアー

協働の森づくり事業の中で深沢地区と養沢地区が整備した昔道がつながり、この道をツアーとして利用しました。この道には深沢の山抱きの大カシ、横根峠の3本スギなどの巨木があり、あきる野の自然は巨木が育つ豊かな自然環境があるということや、昔の人が自然と深いつながりを持って生活していた痕跡として、馬頭観音や多くの石仏などが残っており、自然だけではなく歴史や文化を学ぶことができます。

当日は、サポートレンジャーによる歴史・文化の解説などもありました。参加者のアンケートを分析すると、森や自然については森林レンジャーが解説し、地元の歴史や文化については、サポートレンジャーが得意な分野を活かす協働のツアーが今後実施できること、そして、地域の自然を再発見するツアーは、参加者の満足度が高いと言えます。



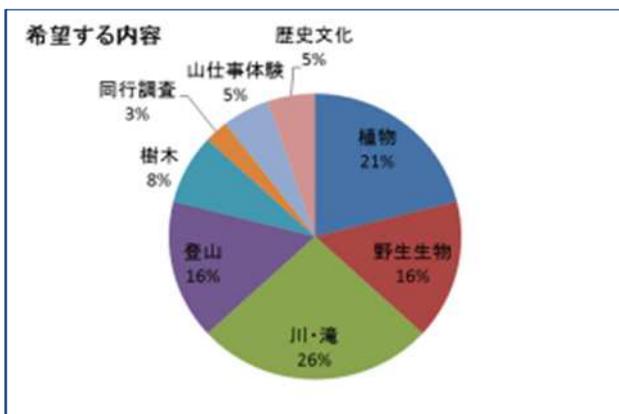
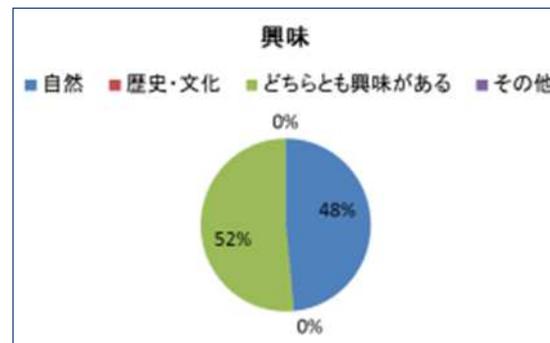
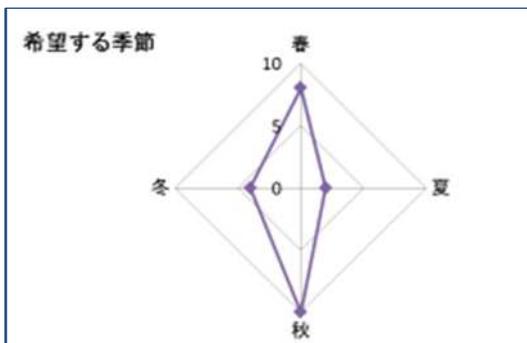
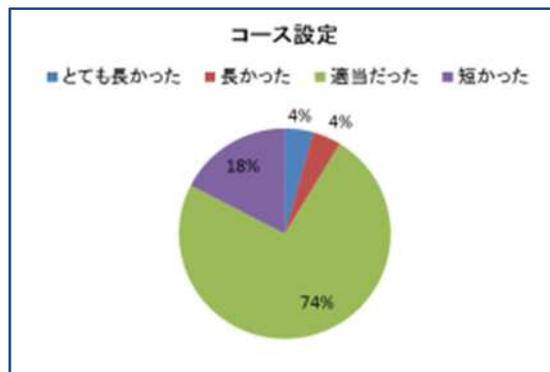
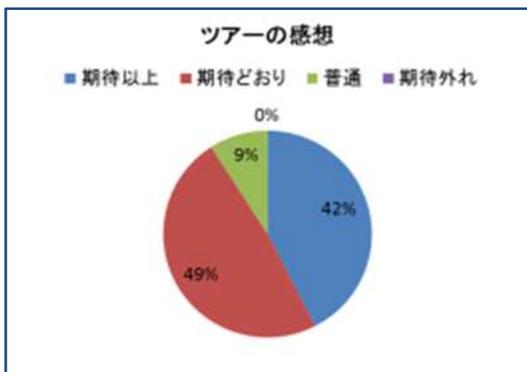
山抱きの大カシ



横根峠の3本スギ



サポートレンジャーによる歴史文化の解説



### 3 まとめ

24年度の自然体験事業は、これまでの森林レンジャーの調査活動と資源発掘調査で培ってきた経験などを踏まえたルート設定やプログラムを作成したことで、参加者が大きなケガをすることもなく無事に終えることができましたが、自然を紹介する私たちは、地域の方々に支えられて多くの人に自然の素晴らしさ、大切さを知ってもらう体験が実施できたと考えています。それは、自然体験で利用したルートの多くが地域との協働で整備したところで、整備が着々と進められただけではなく、地域の方に整備した場所の管理もしていただけに、地域の方々に体験を実施できる理解が得られていることなど、全てがつながったことが大きいと考えています。また、協働で整備をしている中で昔の話や地域の自然、歴史・文化の話を聞かせていただき、自然を調査するだけでは見えてこない部分を私たちが地域の方の代弁者として紹介することができました。

地域の方々が愛する身近な自然を紹介することは、自然の素晴らしさを知ってもらうこと以上の重要な意味が含まれています。そして、その時に出会える身近な自然を再発見することの他に、昔道を歩くことで自然と人が暮らしていた様子を想像することができ、自然があるからこそ人が暮らせるということを知ります。それが自然に対しての畏敬の念を育むと考えています。

今後も、大切に地域の自然を守り育てる形で地域の方と連携しながら、エコツーリズム（※1）の要素を取り入れた自然体験プログラムを実施し、自然に対して行動できる自然体験事業を推進していきます。

※1 エコツーリズムとは・・・

- 地域の特色ある自然・文化・暮らしへの理解を深める旅行や交流活動によって、地域の環境保全や産業振興につながる、仕組み作りのこと（NPO 法人日本エコツーリズムセンターの定義）
- 地域の自然や文化への理解を深め、そのよりよい保全とゆとりある活用により、みずみずしい観光と産業を持続的に発展させる運動（NPO 法人日本エコツーリズム協会による定義）